

授業科目(ナンバリング)	相談援助の基盤と専門職 B (DA105)			担当教員	坂本 雅俊・野田 健		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	1 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>「相談援助の基盤と専門職 B」は、人間尊重とホスピタリティの醸成を図ることを基軸に据え、下記の 4 点を授業のねらいとする。④相談援助の理念について理解する。⑤相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。⑥相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解する。⑦総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。</p> <p>また、精神保健福祉士を目指す学生においては、上記に加え、精神障害者支援に必要な相談援助における共通基盤や専門職倫理を修得することをねらいとし、介護福祉士を目指す学生においても、社会福祉専門職としての共通基盤を修得するとともに、<u>人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を修得することをねらいとする。</u></p> <p>なお、これらのねらいを達成していくため、この授業はアクティブ・ラーニング類型①⑥⑨に沿い、ポートフォリオを活用しながら、小テストやディスカッション等を行っていく。</p>							①⑥⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力	相談援助について理解し、専門知識・倫理を適切に表現することができる。					定期試験	50%
情報収集、分析力	専門職者としての視点から援助対象に関する情報を収集することができ、またそれら情報をもとに実践を分析することができる。					小テスト	15%
コミュニケーション力	その時間、その場所に適したふるまいや態度を選択し、実行することができる。					授業態度	5%
協働・課題解決力	相談援助の基盤と専門職に関する課題を、個人やグループで考察し、解決することができる。					授業内課題	15%
多様性理解力	グループディスカッションを通じて、考え方の多様性を理解するとともに、それを受け入れることができる。					授業内課題	15%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>定期試験 (50%) : 筆記試験の形式にて行い、持ち込みは不可とする。出題形式は、概ね社会福祉士国家試験と同様とする。</p> <p>授業態度 (5%) : 普段の授業中の態度、授業内課題やディスカッションの取り組み具合をもって評価する。</p> <p>小テスト (15%) : 5・11・12・13・14 コマに予・復習を目的に行う。出題形式については、授業中に情報提供を行う。</p> <p>授業内課題 (30%) : 随時、ポートフォリオや配布資料を基に実施する。形式等については、授業中に情報提供を行う。</p> <p>フィードバック : 小テストや授業内課題は、授業中に評価・解説する方法を用いてフィードバックしていく。</p>							
授業の概要							
<p>「相談援助の基盤と専門職 A・B」は、相談援助総論やソーシャルワーク総論ともいべき科目である。そのため、今後履修するであろう「相談援助の理論と方法」や「相談援助演習」等を通して理論に基づいた実践や実践の理論化ができるよう、社会福祉専門職としての基盤固めを行っていく。については、本講義では相談援助の理念、権利擁護の意義と範囲、専門職の概念と範囲、専門職倫理、総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について、実践事例検討(ディスカッション等)を織り交ぜながら学修していく。</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、180 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書 : 社会福祉士養成講座編集委員会編 (2015)『新・社会福祉士養成講座 6 相談援助の基盤と専門職』中央法規</p> <p>参考書 : 空閑活人 (2009)『ソーシャルワーク入門』ミネルヴァ書房 (専門用語理解に活用)</p> <p>指定図書 : リッチモンド/門永朋子他訳 (2017)『貧しい人々への友愛訪問—現代ソーシャルワークの原点』中央法規</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>適宜、実際の事例、新聞記事、DVD映像、社会福祉士国家試験問題(過去問)などを通して授業を進めていくので、教科書で学修した内容をさらに深めて理解してもらいたい。</p> <p>講義は教科書の朗読を指名して行うことがあるため、読めない漢字にはふりがなをつけておくなど予習は必ず行うこと。大学での講義であるので、大切なものは自分で判断して、教科書に記載している内容も含めてノートに書く(メモを取る)習慣を身につけること。復習としては、知識の定着を兼ねてノート整理に努めること。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	相談援助の理念Ⅰ①	ソーシャルワーク実践における専門職が身につけるべき価値や理念、原則（ <u>人間の尊厳と人権・福祉理念</u> ・社会正義等）について学ぶ。（坂本）	予習：5章1,2節を読む。 復習：知識を定着させる。 （ノート整理）
2	相談援助の理念Ⅰ②	ソーシャルワーク実践における権利擁護について、その背景や概念、態様等を学ぶ。（坂本）	予習：5章3節を読む。 復習：知識を定着させる。 （ノート整理）
3	相談援助の理念Ⅱ	<u>自立の概念</u> を踏まえ、自己決定、自立支援、エンパワメント、ストレングス視点、ノーマライゼーション等の理念とその具現化について学ぶ。（坂本）	予習：6章を読む。 復習：知識を定着させる。 （ノート整理）
4	専門職倫理と倫理的ジレンマ①	専門職倫理の概念、倫理綱領の意義と内容、倫理綱領の活用のあり方を学ぶ。（坂本）	予習：7章1,2節を読む。 復習：知識を定着させる。 （ノート整理）
5	専門職倫理と倫理的ジレンマ②	ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマと倫理的判断過程を学ぶ。（野田）	予習：7章3節を読む。 復習：知識を定着させる。 （ノート整理）
6	総合的かつ包括的な相談援助の全体像①	「総合的かつ包括的な相談援助」の動向とその背景、ならびに地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座を学ぶ。（野田）	予習：8章1,2節を読む。 復習：知識を定着させる。 （ノート整理）
7	総合的かつ包括的な相談援助の全体像②	地域を基盤としたソーシャルワークの8つの機能を学ぶ。（野田）	予習：8章3節を読む。 復習：知識を定着させる。 （ノート整理）
8	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論	ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点、特質を学ぶ。（野田）	予習：9章を読む。 復習：知識を定着させる。 （ノート整理）
9	相談援助にかかる専門職の概念と範囲①	専門職の成立条件や認定社会福祉士の位置づけ、職能団体の役割を学ぶ。（野田）	予習：10章1節を読む。 復習：知識を定着させる。 （ノート整理）
10	相談援助にかかる専門職の概念と範囲②	相談援助専門職が活躍する領域やその業務、諸外国の動向を学ぶ。（野田）	予習：10章2,3節を読む。 復習：知識を定着させる。 （ノート整理）
11	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能①	「個と地域の一体的支援機能」「予防機能」に関する事例を通して専門的機能を学ぶ。（野田）	予習：11章1,2節を読む。 復習：知識を定着させる。 （ノート整理）
12	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能②	「新しいニーズへの対応機能」「総合的支援機能」に関する事例を通して専門的機能を学ぶ。（野田）	予習：11章3,4節を読む。 復習：知識を定着させる。 （ノート整理）
13	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能③	「多問題家族への支援」「権利擁護機能」に関する事例を通して専門的機能を学ぶ。（野田）	予習：11章5,6節を読む。 復習：知識を定着させる。 （ノート整理）
14	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能④	「社会資源開発機能」に関する事例を通して専門的機能を学ぶ。（野田）	予習：11章7節を読む。 復習：知識を定着させる。 （ノート整理）
15	まとめ	相談援助の基盤と専門職のまとめとして、教科書全体を振り返り、相談援助専門職者としての基盤固めを行う。（野田）	予習：教科書全体を読む。 復習：知識を定着させる。 （ノート整理）
16	定期試験		